幻想の明治

第六話

待った兵衛

高信太郎

お前さん そりゃ 困るよ
と妻は いうのだった

働いて くれなきゃ カマのフタが あかないよ
と泣くの だった

もとは そうとうな 物持ち だったものが

酒のために こんなに 落ちぶれ はてて…
とグチるの だった

いったい 何が 気に入らない のサ
別に

じゃ なんか わけが あるのかい
と聞くの だった

答えんか!
と殴るのだった

意外と 力は強いのだった…
痛いの だった…

あたしゃもーホトホトあいそがつきたからね
と妻はいうのだった

出てくよっ!
覆水盆に返らず
だぞ

なんだいそりゃ?
知らねえのかだから女はバカだってんだ

昔もろこしに太公望というボーとした人がいてな

毎日釣りばかりしとったんじゃ

ハリもつけんと……

アホだねー
とお前も思うか
太公望のカカアもそう思った

で
実家へ帰らせてもらいます
ど〜ぞ

というところへ
釣れますか などと文王 そばにより
来た来た来た

なんだいそりゃ
えらい王様に見いだされて家来になったな えらい出世をしたんじゃ

そこへ女房が帰ってきてな
あなた私が悪うございました どうか許して下さい
はいはい

この水をもとの盆に返したら許してあげよう

これすなわち覆水盆に返らずということじゃ
ふ〜ん
わかったか

その話とお前さんとどういう関係があるのサ
あ
あ
あ
あ

だから今出ていくと後悔するぞてんだ!

アホらしい
これ以上
呑んだくれには
つきあえないよ
と
妻は
出ていったの
だった…

妻は
出ていく
夫は残る
残る夫は
酒を呑む
酒

グビッ

そして
寝る

あれは
いつのこと
だったろうか…

わしが
ボーと
しておると…

一匹の
ヘビが

足にかみついた
こここ
このオ

頭つぶしたる
お、お待ち下さい

げっ

ヘ、ヘビが喋べるとは
ヘヘヘ
ヘビックリしたでしょう

実は私は只のヘビではないのです

あなたは選ばれた人です
私のかんだ傷がその証拠となります

あなたは生れ変るその日を待ちなさい
いずれ私に感謝する日がくるでしょう
ふーん

それではね
とヘビは去っていったのだった

あれからずーっと
その日の来るのを待っている

酒を呑みながら
選ばれた者として…

しかしいーかげんくたびれたなー
いったいいつになったら迎えがくるんだろ

それにしても思い出せんのがあのヘビに会った時だ…
ずーっと昔のおれが子供だったころ…

子供だったころ…

まてよこれがおれの子供のころか…
そうだこれはおれだ…

しかし…まてよ…本当にそうか…
あのヘビと会った時子供だったおれは…

なんのうらみか ヘビを食って 中毒死したらしい…

バカな奴だ あれほどの 豪農の家に 一人息子として 生まれながら この死にざまは …

来世は ロクなものに 生まれ変らんじゃろうて …